

### 1 学校教育目標

- 考える子
- やさしい子
- 元気な子

### 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○児童、保護者、地域にとって安全、安心な学校 ○「分かるよこび、楽しいかかわり、元気なあいさつ」にあふれる学校 ○保護者、地域の信頼に応える学校
○児童・生徒像	○自己肯定感、自己有用感がもてる児童 ○進んで知（あたま）・徳（こころ）・体（からだ）を高める児童 ○西伊興小学校のきまりをしっかりと守る児童
○教師像	○専門職としての自覚をもち、謙虚に学び続ける教師 ○児童、保護者とより良い関係を築き、仲間と助け合う教師 ○「よいことはよい、悪いことは悪い」とメリハリある一貫した指導をする教師

### 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

#### （1）学校の現状

- 通常学級 16 学級、特別支援学級 3 学級、全 19 学級、児童数 533 名の予定である。（31. 4. 1 見込）
- 学校 2019 年度 47 周年。2022 年度の 50 周年を迎える。地域の応援が厚いと同時に期待も大きい。
- 児童の基本的な生活習慣が確立しており、全体的に落ち着いて学校生活を送っている。
- 教職員の一体感にやや課題があるが、共通理解のもとに教育活動を進めている。西伊興小学校の伝統を踏襲しつつも、小規模校から中規模校への転換を図るべく改革を進めている途上である。

#### （2）前年度の成果と課題

##### ①成果

- H30 年度区学力調査の目標値に対する学校平均目標通過率 80.6%（H29 年度 83.4% ▼2.8%）  
⇒前年度よりも下降したが、平均正答率区順位は昨年度よりも 4 ポイント上昇している。

##### ○都学力調査結果

	国語	社会	算数	理科
東京都	65.0	73.5	57.5	70.8
本校	67.6	76.5	63.2	74.0

⇒各教科ともに都平均を上回ることができた。

- 漢字・計算は、漢字・計算コンテストの取組により学年・内容に応じて基礎・基本の習得が図れた。  
校内学力テスト、計算コンテストは難易度を上げ、課題となっている躓きやすい問題へと一部見直した。
- 児童の授業アンケート結果 わかりやすいと回答した児童 95%（前年比▼4%）
- 保護者の授業アンケート結果 わかりやすいと回答した保護者 91%（前年比△5%）
- 体力調査結果  
全ての学年においてソフトボール投げが都平均よりも 3%程度低い。
- 保護者の学校評価アンケート結果  
学校はホームページ、学校だよりを通して教育活動を分かりやすく伝えているという項目できている 91.3%（前年比△2%）
- 学校ホームページを一新し、毎日更新することにより、アクセス数が大幅に増加  
⇒1 月 20 日現在まで 7 か月間で 7912 件
- H30 年度より漢字検定を 1 回から 2 回に、新たに算数検定を実施したことで、学習に対する関心度が飛躍的に伸びた。漢字検定受検者 192 名（1, 2 回合計 前年比△33%） 算数検定受検者 56 名  
⇒H30 年度受検者のべ 248 名（全児童の 50.6%が受検）
- 生活指導面（生活指導がんばり表）  
夏季休業日明けの生活がんばり表の結果

	1就寝	2起床	3体温	4朝ご飯	5挨拶	6学習	7手伝い仕事
H30年 9月	85.8%	95.4%	99.5%	99.2%	98.5%	89%	90.8%

⇒各項目共に高い達成率である。

## ②課題

- 区学力調査において目標とする通過率を達成することができなかった。
- 授業以外に現在行っている補習、再指導を充実させ、継続することで家庭学習の徹底を図っていく。
- 校内学力調査を今年度同様に実施し、類似問題の習熟を図ったり、問題の解説の方法をさらに工夫していったりしていく必要がある。
- 今後は都調査、全国B問題にも対応できるよう、思考力、表現力、判断力向上を目指すために、主体的、対話的で深い学びができる授業研修を進める必要がある。
- 漢字・計算コンテストを今後も定期的実施していくが、問題の一部を見直す。
- 体力調査結果  
 コオディネーショントレーニングを体育の授業で毎時間実施し体幹を鍛えていく。
- 生活づくりがんばり表の見直し  
 長期休業後の生活を見直すために、夏と冬の2回の実施とする。
- 保護者アンケートでは「基礎的な学力の定着と考える表現する力を付けている。」という項目で、付けていないと回答した割合が14%あり、全項目の中でも突出して高い。

## 4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		29	30	31	32	33
1	基礎基本的な学習内容を90%の児童に身に付けさせる。	◎	◎	◎	◎	◎
2	主体的、対話的な学びを充実し思考力、表現力、判断力を向上させる	○	○	○	◎	◎
3	体力調査において投力の向上を図る。	○	○	○	◎	◎

## 5 平成31年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上
A 今年度の成果目標		平成31年度区学力調査目標通過率と年度末の到達目標
基礎的、基本的な学力の確実な定着を図る。		目標通過率 82% 年度末 84%
B 前年度の取組み内容		
項目	具体的な方策	
基礎・基本の確実な定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○放課後補習「アフタースクール」、週1時間「基礎基本の時間」の徹底。</li> <li>○4月の区学力調査結果を自校採点、5月に結果分析。</li> <li>○正答率の低い問題を全体および個別に重点指導。</li> <li>○目標値未通過者の半減を目標に再指導の上10月に再テスト。</li> <li>○2月にプレテスト、採点集計、再指導。</li> <li>○毎月1回の校内学力テスト、漢字コンテスト、計算コンテスト。</li> </ul>	
校内研究、小中連携による授業改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年間のべ50回以上、指導案に基づいた研究・発表授業。</li> <li>○年間2回児童と教員に授業アンケート。</li> <li>○年間6回+α、伊興中、古千谷小、伊興小との小中連携。</li> </ul>	
「足立スタンダード」の共通理解と徹底を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○若手研を毎週短時間(20分程度)で実施する。授業展開、板書計画、ノート指導の「足立スタンダード」教員研修。</li> <li>○漢字、計算コンテストの表彰を年間6回実施。</li> <li>○年間18回「足立スタンダード」に基づく授業観察、指導。</li> <li>○年間2回授業参観時に保護者授業アンケート、開かれた学校づくり協議会委員の授業診断の実施。</li> </ul>	

<p><b>C 前年度の成果と課題</b></p> <p><b>【成果】</b>  ○重点指導、補習、再テスト、プレテスト等の継続的な取組を見直し、内容や方法の改善を図ったことにより、基礎学力定着に一定の効果があつた。学級間の差をなくすよう組織的取組をしたことで、全校同一歩調で取組を徹底できた。  ○指導案作成、管理職による授業観察と指導、教員・保護者・開かれた学校づくり協議会委員による授業評価とアンケートを活用しどのように改善すべきかを明確にした。  ○小中連携の4年間の取組で一定程度の授業改善が図れた。他校の教員の良い点を学び、自校の授業改善に生かすことができた。</p> <p><b>【課題】</b>  ●若手教員研修が十分に機能しなかったため、次年度は毎週短時間で実施できる体制をつくっていく。  ●小中連携校の伊興中、古千谷小、伊興小と共に、授業改善を一層進める。</p>
--

<p><b>D 今年度の目標実現に向けた取組み</b></p>		
項目	達成基準	具体的な方策
<p><b>別紙</b>  「平成30年度 学力向上アクションプラン」参照</p> <p>基礎・基本の確実な定着を図る。</p>	<p>区学力調査の10月再テストで目標値未到達者の半減</p> <p>校内学力テスト、漢字・計算コンテスト、平均正答率85%達成</p>	<p>○SP分析を共有し、課題と傾向を探る。  ○月曜放課後の「アフタースクール」で抽出低習熟児童につまずきを重点指導。  ○年2回の個人面談期間中、算数担当教員による補習教室を実施。  ○4月に区学力調査結果自校採点と分析。  ○5～8月抽出児童対象補習、サマースクールで低正答率の問題を少人数指導。  ○6月に都学力調査の5年特別補習。  ○10月に区学力再調査と未到達者再指導。  ○2月に区学力事前調査、採点集計、正答率80%未満の児童個別再指導。  ○毎月1回校内学力テスト、漢字コンテスト、計算コンテストを実施。満点賞に賞状を授与、顕彰。  ○そだち指導の活用、中学年全体の底上げ。</p>
<p>校内研究、小中連携による授業改善を図る。</p>	<p>授業アンケート  授業が「楽しかった」  児童自己評価で90%以上</p>	<p>○指導案に基づいた研究、公開授業を年間のべ50回以上実施。  ○年間2回保護者授業参観時に教員・児童・保護者に授業アンケート実施。  ○年間6回+α伊興中、古千谷小、伊興小との小中連携実施。</p>
<p>「足立スタンダード」の共通理解と徹底を図る。</p>	<p>授業アンケート  授業が「わかった」  児童自己評価で95%以上</p> <p>「足立スタンダードの板書とノート指導の工夫をした」  教員自己評価で80%以上</p>	<p>○年間30回以上「足立スタンダード」に基づいて授業観察、評価、指導。  ○管理職が講師となって足立スタンダード教員研修実施  ○研究主任等が講師となってノート指導教員研修実施。  ○年間2回全児童のノート回収、点検評価、よいノート表彰。  ○板書計画、板書の撮影記録に基づき協議、指導改善のための教員研修。  ○年間2回授業参観で教員・児童・保護者の授業アンケート、開かれ授業診断実施。</p>

<b>重点的な取組事項－2</b>	体力向上
-------------------	------

<b>A 今年度の成果目標</b>	<b>達成基準</b>
体力向上の取組を通して、握力や投擲力を高め、体幹、背筋を鍛える。	体力調査結果合計点で区平均を上回る。
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>	

項目	達成基準	具体的な方策
体力調査結果を区平均以上にする。	○上体起こし区平均以上 ○握力区平均以上 ○ソフトボール投げ区平均以上	○指導方法測定方法の教員研修を実施。 ○プレ体力調査の重点取組みを実施。 ○体力向上のための運動の日常化。 ○自主運動遊びができる環境整備。
縄跳び、持久走の全校実施	○長縄…区の目標 1 学級達成 ○持久走週間【校庭周回数】 1・2年生 80 周以上 3 年生以上 100 周以上	○重点指導月間の取組を充実。 ○体育の授業、体育朝会での重点指導。 ○休み時間や家庭での主体的な取組への児童の意識付けと保護者への啓発。 ○達成者、達成学級を表彰。
体育授業の充実・改善	○卒業までに水泳 25m 90% ○体力調査翌年までに前年度比 3%以上上昇	○全学年学級の体育授業を観察・指導。 ○当該学年の未達成者を重点指導。 ○授業技術、怪我防止の教員研修を実施。

<b>重点的な取組事項－3</b>	心の教育の充実と家庭・地域との連携
-------------------	-------------------

A 今年度の成果目標	達成基準
特別の教科道徳授業の充実と子供の豊かな情操を育む取組みの推進	児童の道徳授業振り返り自己評価において「よく考えた」90%以上

B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
道徳授業地区公開講座の充実	意見交換会の参加人数全保護者の 20%以上	意見交換に参加したくなるようなしかけ（子育てセミナーのようなもの）を実施し来てよかったと思える会を作る。
PTA と協力した学年学級活動の充実	全保護者の 70%以上の参加率	親子がふれあい、さらに教員とも楽しむことができるイベントを土曜授業の終了後に設定して実施する。
図書ボランティア、伊興地域センターによる読み聞かせ	年間各クラス 5 回以上実施	図書ボランティアとともに管理職や専科教員も巻き込んで学校全体で、読み聞かせを充実させていく。